

**Circuit Live
Weather**


設置したPOTEKA

サーキットでPOTEKA活用

千代田組様が運営する日本初のサーキット専用気象情報サービス「Circuit Live Weather (CLW)」でPOTEKAが活躍しています。

モータースポーツでは、タイヤ選択等のレースセッティングやピットインのタイミングを判断する上で、気象状況の変化が大きな判断材料となります。CLWは、富士スピードウェイ、鈴鹿サーキットなど国内6カ所のサーキットにおいて利用可能で、レーシングチームを始めとしたサーキットの利用者やレース運営者に対して、サーキットやその周辺地域の詳細な気象情報を提供することで、より高度なレースの駆け引きを促し、レースシーンを盛り上げます。

明星電気の超高密度気象観測・情報提供サービスPOTEKAは、レース中に刻々と変化する雨や風などの気象状況を捉えるために活用されています。

(担当: 気象防災事業部)



来場者に説明する当社社員



展示ブース全景

気象技術世界博覧会(MTWE)2017に出展

気象技術世界博覧会 (MTWE)は年に一度開催される気象関連で最大の展示会であり、今年は10月10日から12日までの3日間、オランダのアムステルダムで開催され、連続4回目の出展となります。

当社は超高密度気象観測システムPOTEKA、世界最小最軽量であるラジオゾンデIMS-100の環境に優しい生分解管体タイプ、今年4月から気象庁で稼働している新型ラジオゾンデ自動放球システムARS(Automated Radiosonde System)、CPSゾンデ(Cloud Particle Sensor Sonde)を中心に展示しました。特に当社独自のシステムを採用している新型ARSに多くの来場者が興味を示していました。

今後もこのような機会を利用して、世界市場における明星電気のシェアをさらに高めるよう引き続き活動していきます。

(担当: 気象防災事業部)



ドロップゾンデ(右)と受信システム

台風21号の観測にドロップゾンデが使用されました

名古屋大学宇宙地球環境研究所を中心とした研究グループが、日本列島を直撃した超大型で非常に強い台風21号について、航空機を用いて直接観測を実施しました。観測には当社製ドロップゾンデIMS-17型が使用され、航空機から台風の目の中心と周辺にドロップゾンデを投下し、温度、湿度、気圧、風向・風速が観測されました。

今後も各種ゾンデの開発を通じて、台風予測精度の向上などの研究の発展に貢献していきます。

(担当: 気象防災事業部)

明星電気の活動を紹介します。

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により革新的な商品・サービスを創造し

安全・安心な社会の発展に貢献していきます。